

2020/3/7 第2回グランドワークフォーラム

楽しめる川づくり

グランドワーク東海 山本孝之

開催趣旨

日本ではこれまでの経済発展で豊かさを手に入れてきたが、心の中では豊かさを実感していないのではないか？グランドワーク活動は現場に関与することで心の豊かさを取り戻す活動。本日のフォーラムを通じてグランドワーク活動をより魅力あるものにする機会としたい。

ゲストスピーカー

以下の(一社)代表理事、株式会社代表瀬川貴之

問題認識

幸せのために、水辺のポテンシャルを全然活かせていないのではないか。

当法人紹介：運営法人

社団法人概要

子供達が目を輝かせて飛び込んでいくような水辺を未来の世代に。

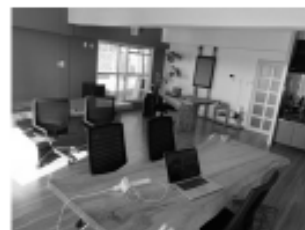
豊かな水辺環境と水辺文化の創出



項目	内容
法人名	一般社団法人ClearWaterProject
設立年月	2013年4月
従業員数	17人(株式会社と共有)
所在地	愛知県名古屋市天白区塩釜口2-1403-703
電話番号	052-861-2287
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 参加型水辺改善GIS「AQMAP(アクマップ)」、川ファンを増やす「川遊びマップ」、流域改善団体を支援する「カワサボ」、遊漁券ネット販売サービス「つりチケ」の各種開発・運営 環境コーディネーター事業

株式会社概要

共創型システムパートナー



項目	内容
法人名	株式会社creato
設立年月	2014年4月
従業員数	17人
資本金	1760万円
所在地	愛知県名古屋市天白区塩釜口2-1403-703
電話番号	052-861-2286
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 自社WEB, アプリサービスの企画, 開発, リリース, 運用までの一気通貫サービス システムコンサルティング WEBサービス開発 スマホアプリ開発 画像認識処理/AI開発

なぜ二つの組織が必要なのか

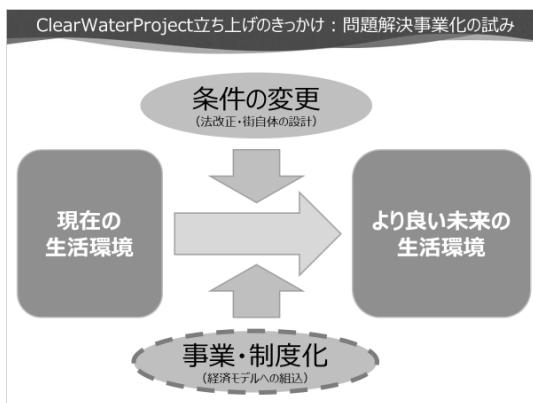
水環境改善という問題解決のためには以下の 5 条件を満たす必要があると考えている。

- ◎ 一人でやることをあきらめる。ほか人の得意分野に期待する
- ◎ 収入源を作る＝持続性
- ◎ 個を伸ばす。組織の枠に縛られすぎない
- ◎ 8割2割の原則。2割のお金・時間は将来への投資に使う
- ◎ 社会的インパクト重視。中間支援団体として地元をサポートする

そのためには社団法人と株式会社の両輪が必要と考えた。

会社に関しては、もともとコンピューターシステムづくりをやってきたので社団法人の行う「川の遊漁券をネット販売出来る釣りチケ」、「川で遊ぶための「川遊びマップ」配信」などと並行して業務用システム・アプリづくりなどで収入源を確保しつつ川での楽しみを紹介している。

二つの組織を通じて川につながる人々との情報共有ツール「AQMAP」



<http://clearwaterproject.info/services/aqmap>

を運営して問題解決にあたっている。

組織のポリシーとして中心の考えにあるのが**自主自立**。自分の能力を磨き自立することが、①専門性を持った人が集まって新しい価値を社会に提供

できる、②参加する個人にとっては最悪うち（会社）が潰れても食べていける、③個人の仕事の幸福感（裁量の大きさ）である。これを具体的な言葉にすると以下の表になる。具体的な活動例は<http://clearwaterproject.info/services>に詳しいが、これが、クリアウォーター考える楽しめる川づくりである。

具体的成果として豊田市の名倉川漁協の経営環境改善、岩本川の環境改善活動などの紹介がされた。

社内雰囲気・制度・キーワード

フルフレックス リスクテイク
コンティンジェンシープラン

年5万円自由経費精算 よく働きよく遊べ

リーダー・経営陣評価

多面的プロセス評価

能力向上

自主自立

20%自主枠確保

スパイキー

リモート勤務自由・休暇自由

オープン・フェアネス・多様性

個人と社会の幸福の両立

新しい公共

給与自己決定

ライフステージに沿った働き方を

環境学習（有料）は川に入って生物調査を通じて川・池が形成されてきた地域の歴史を伝えることも行っているが、指導者、安全制約から場所が限られるという問題がある。

意見交換

河川に手を入れるための関係者との調整のありかた（マニュアル方式は妥当か）など河川行政の進め方についてまでも話は広がった。一方、民間としては感覚で話を進めることが多い。感覚的には80%のマニュアル、20%の民間感覚採用くらいがよいのではと思う。

今後の人口減少、高齢化トレンドを考えるとこれらの陸上空間でも維持管理が難しくなることが懸念される。都市住民の参加を考える必要があるが、しかし、制度化すると既得権化するという問題が発生する。企画代表者の理念がうまく伝わるのが重要ではないか。

河川で楽しむルールの在り方について、自主自立の考え方（自分でリスク判断ができる）でリスク管理教育をすることに尽きるのではないかと。しかし、個人的な差があるので一律なステップアップ体験させることは難しい。継続的なプログラム・コンテンツを提供する力を持てればいい。

都会住民の家族農業体験がある。いい事例となるのではないかと。リスクの自覚を持つことが前提になる。

（クリアウォーターは）リスクを含めた楽しみを共有できるコミュニティを作ることができたので続いている。

継続的な楽しみの提供は自主自立の環境保全意欲、管理の一部自主管理につながるので大事なことだ。

感想

そもそも川での楽しみは何があるのか？釣りが代表的なので漁協が仕切っている例が多いが、他には遊泳で時に水難事故が伝えられたりする。しかし、そんなに遊泳が多いわけではない。高水敷ではキャンプ、イベント、公園利用が代表的であるが水面空間の利用は少ない。

一方、川を空間として見れば誰に対しても公開されている唯一の空間であるから楽しめる川づくりは期待される分野である。

環境コーディネーター事業

【小さな自然再生コーディネーター】



（「ふるさと川づくり」住民懇談会）



（「小さな自然再生」現地研修会）



（岩本川探検隊イベント）

【Edu.Nature（月謝制・通年の環境学習）】

毎週、3コースを開講し、一年を通じて生き物の生態BioGardenWithとのコラボ事業です。

生き物と生き物、生き物と環境との関わりを究明すべの中心とし「生態学」で物事を判断できる人材の育机上の学習だけではなく、徹底したフィールドワーク、有ります。

◆場 所 愛知県丹羽郡扶桑町 ◆定 員 各コ
◆費 用 入校費、月謝 ◆対 象 小学
生 男女

主幹学 鳥・昆虫コース

- 鳥の成生 羽生 産卵
- 鳥と人の関係と 生態
- 小さな生態系作り
- ★観察日記 等

主幹学 鳥・昆虫コース

- 鳥の成生 羽生 産卵
- 鳥と人の関係と 生態
- 小さな生態系作り
- ★観察日記 等

主幹学 草・昆虫コース

- 植物の成生 葉の作り
- アリの生態
- 観察日記 等